

④評価基準の参考例

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・資料活用	知識・理解
<p>B 我が国の歴史上のおもな事象に関わる身近な地域の歴史的な事象について、身近な文化遺産や郷土博物館、資料館などを活用して意欲的に調べようとしていた。</p>	<p>B 我が国の歴史上のおもな事象に関わる身近な地域の歴史的な事象について、学習問題をつかみ、歴史を学ぶ意味について考えていた。</p>	<p>B 身近な文化遺産や郷土博物館、資料館などを活用して、我が国の歴史上のおもな事象に関わる身近な地域の歴史的な事象について、具体的に調べていた。</p>	<p>B 身近な文化遺産や郷土博物館、資料館などを活用すると、我が国の歴史上のおもな事象に関わる身近な地域の歴史的な事象について調べることができることを理解していた。</p>
<p>A B基準に加え、歴史を学ぶ意味について、考えようとしていた。</p>	<p>A B基準に加え、歴史を学ぶ意味についての考えを、適切な言葉で表現していた。</p>	<p>A B基準に加え、調べた過程や結果を、目的に応じた方法でノートなどに整理して、分かりやすくまとめていた。</p>	<p>A B基準に加え、郷土博物館、資料館、図書館などでは、DVDを利用したり、学芸員に質問したりして調べることができるとについても、十分理解していた。</p>

⑤「歴史を調べる手がかり」の学習の時間の扱い方

この時間は、この学年での我が国の歴史の学習の時間の導入の時間である。教科書には、大昔のくらしから平和な世界を目指す現在までの我が国の歴史を一目で見ることのできる見開きのページが用意されている。この資料をもとに、半年以上にわたって、日本人による国づくりの学習が始まることに関心をいだかせるとともに、身近なところに、歴史を調べる手がかりがあることを、足立区北千住に見られる宿場町だったことの名残りや姫路市平和資料館の復元された戦時中の様子の例から理解させ、「身近な場所に日本人による国づくりについて考える手がかりになるところはないだろうか」という学習問題をつかませる。

すぐに行かれる場所がある場合には、例を参考にし、現地に赴いて学習する。現地での学習がすぐには難しかったり、その時代の学習にあわせて現地に出向く方がよい場合は、例を参考に、身近な文化遺産や資料館の見学を疑似体験させる。図書館などの図書やDVDの利用や歴史の専門家である学芸員、巻末年表の活用などにも触れながら、歴史を学ぶ意味を考えさせるとともに、歴史を学ぼうとする意欲を高める。

●小単元1	「大昔のくらはしは、どんなようすなの」 (6年上教科書 p.10~23)
-------	--------------------------------------

①小単元の目標

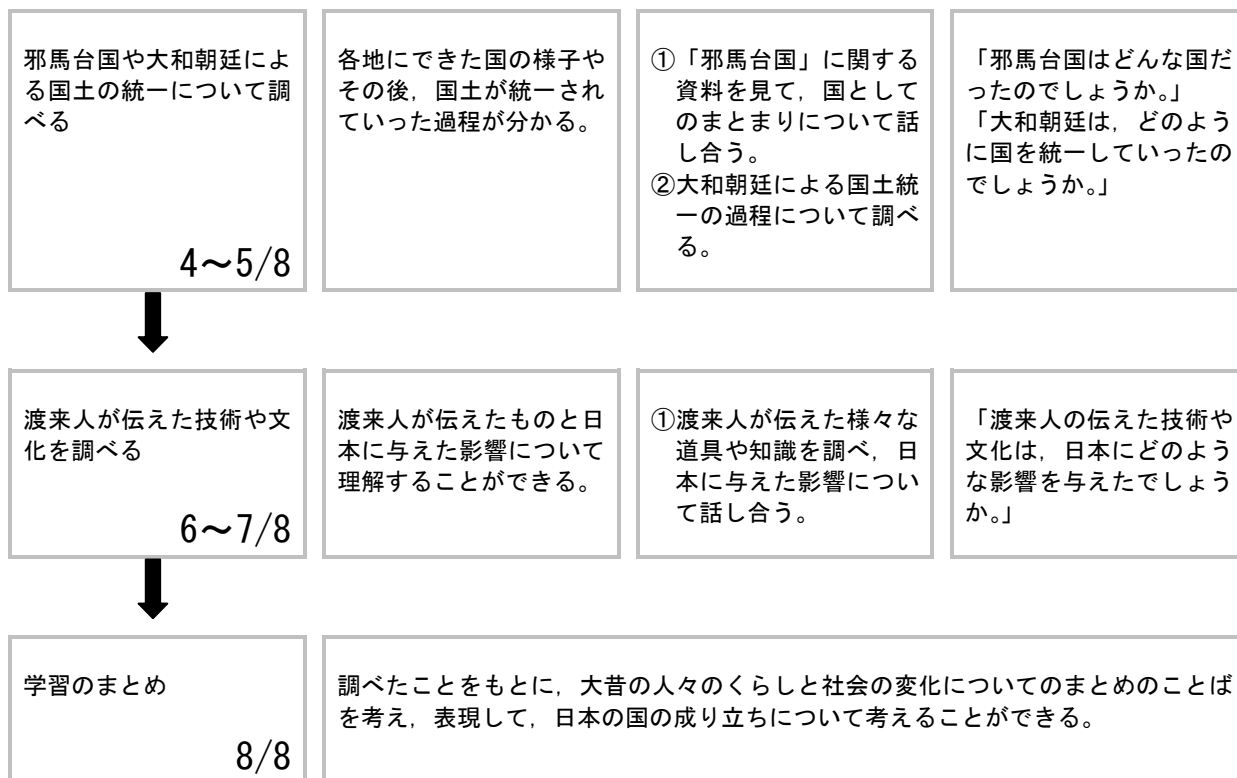
国の形成に関する考え方などに関心を持ち、狩猟・採集や農耕の生活、古墳などについて、遺跡や文化財、年表その他の資料を活用して調べ、大和朝廷による国土統一までの様子が分かり、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。

②評価規準の設定例

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・ 判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象について の知識・理解
<p>鳥浜貝塚や三内丸山遺跡、吉野ヶ里遺跡、各地の古墳などの遺跡に関心を持ち、国の形成について意欲的に調べ、考えようとしている。</p>	<p>縄文時代以後のくらしや社会の変化、国土統一の過程について学習問題をつかみ、調べたこととともに、我が国の成り立ちや特色について考え、適切な言葉で表現している。</p>	<p>次のことについて、遺跡や文化財、資料などを利用して調べている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縄文時代のくらし ・米づくりの始まりとくらしの変化 ・各地にできた国 ・国土統一と渡来人の活躍 	<p>縄文時代のくらしの様子や米づくりによるくらしの変化、その後の大和朝廷による国土統一の過程、渡来人の伝えた知識や技術などについて理解している。</p>

③小単元の学習の流れ(8時間扱い)

学習事項	めあて	おもな学習活動	おもな発問例
<p>学習問題をつかむ</p> <p style="text-align: right;">1/8</p>	<p>二つの絵を比べて話し合い、大昔のくらしの様子やその変化についての学習問題をつかむことができる。</p>	<p>①「狩りをしてくらす人びと」と「吉野ヶ里のむらのようす」の図から、くらしの様子と変化に気づかせ、学習問題をつかむ。</p>	<p>「二つの絵を比べて、大昔の人々のくらしの様子や変化について考えましょう。」</p>
<p>縄文時代や米づくりのむらの様子を調べる</p> <p style="text-align: right;">2~3/8</p>	<p>縄文時代の人々は、どのようなくらしをしていたのか、米づくりが伝わりと人々のくらしはどのように変わったのか、理解することができる。</p>	<p>①縄文時代のくらしの想像図を見て、人々のくらしの様子について話し合う。</p> <p>②「吉野ヶ里遺跡」の図を見て、米づくりが伝わったことによる人々のくらしの変化を話し合う。</p>	<p>「縄文時代の人々は、どんなくらしをしていましたか。」</p> <p>「吉野ヶ里遺跡の図や出土品から、人々のくらしや社会はどう変わったと思いますか。」</p>

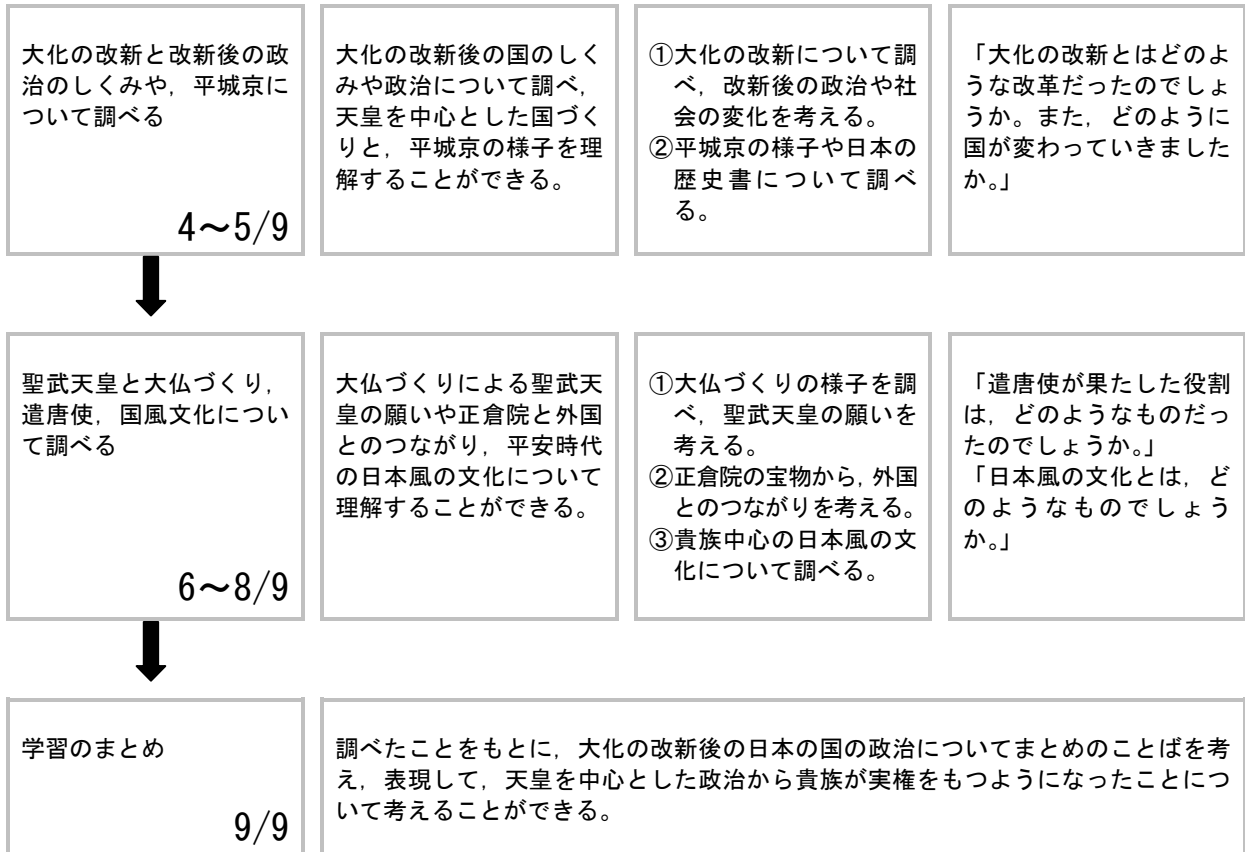


④評価基準の参考例

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・資料活用	知識・理解
B 鳥浜貝塚や三内丸山遺跡、吉野ヶ里遺跡、各地の古墳などの遺跡に関心をもち、図や出土品、その他の資料を活用して、意欲的に調べ、考えようとしていた。	B 学習計画にそって調べを進め、狩りや漁のくらしや米づくりの始まり、国土の統一などについて、それに関わる人々の働きを説明できていた。	B 図や出土品、その他の資料を活用して、教科書掲載の遺跡の様子や国土の統一などについて調べ、分かったことをノートなどに書きとめていた。	B 米づくりの伝播以後、人々の生活や社会の様子に変化したこと、各地にできた「国」が大和朝廷によって統一されたことなどを理解していた。
A B規準に加え、とくに三内丸山遺跡、吉野ヶ里遺跡や各地の古墳などについて理解を深め、我が国の遺跡・遺物を大切にしようとする態度が見られた。	A B規準に加え、狩りや漁のくらしや米づくり、国土の統一、大陸文化との関わりなどを通して、我が国の成り立ちの特色を適切な言葉で表現していた。	A B規準に加え、目的に応じた方法でノートなどに整理していた。また、「調べて考えたこと」をまとめ、「服装の変化」などを分かりやすく発表していた。	A B規準に加え、大和朝廷と渡来人との関わりについても、十分理解していた。

⑤「縄文時代や米づくりのむらの様子を調べる」における社会的事象への関心・意欲・態度の評価例

この学習では、狩りや漁を中心とした生活の様子や、米づくりが始まったことによるくらしや社会の変化に関心をもち、関心をもつことが大切である。狩りや漁を中心とした生活や、米づくりが始まったころの生活の様子にまったく関心をもたなかった児童は「努力を要する」、狩りや漁を中心とした生活の様子や、米づくりが始まったことによるくらしや社会の変化に関心をもち、意欲的に調べようとしていた児童は「できていた」、社会の変化がさらのどのような変化にいたるのかに強い関心をもち、今後の学習活動に非常に意欲的な児童は「よくできていた」と評価する。



④評価基準の参考例

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・資料活用	知識・理解
<p>B 大化の改新後の我が国のしくみや政治について関心をもち、図やその他の資料を活用して、意欲的に追究していた。</p>	<p>B 学習計画にそって調べを進め、聖徳太子の政治の様子やその後の天皇を中心とした政治の確立について、説明できていた。</p>	<p>B 遺跡や文化財、資料などを活用して、聖徳太子の働き、大化の改新、大仏づくりなどについて調べ、分かったことをノートに書きとめていた。</p>	<p>B 聖徳太子の働き、大化の改新、奈良時代の聖武天皇による大仏建立など、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解していた。</p>
<p>A B規準に加え、とくに法隆寺や大仏、正倉院の宝物などについて理解を深め、我が国の遺跡・遺物を大切にしようとする態度が見られた。</p>	<p>A B規準に加え、聖徳太子以後の天皇を中心とした政治の確立に関わった先人の働きについて、適切な言葉で表現していた。</p>	<p>A B規準に加え、ノートを整理して、「調べて考えたこと」をまとめ、また、「年表」などに分かりやすく表現していた。</p>	<p>A B規準に加え、平安時代には、貴族を中心とした日本風の文化が展開したことについても、十分理解していた。</p>

⑤「聖武天皇と大仏づくり、遣唐使、国風文化について調べる」における社会的事象についての知識・理解の評価例

この学習では、大仏づくりや奈良・平安時代の政治や文化について調べて、天皇中心の政治が変化した様子について理解することが大切である。したがって、政治や社会の変化に十分気づいていなかった児童は「努力を要する」、大化の改新後の政治や社会の変化を理解できた児童は「できていた」、遣唐使による中国などの国々とのつながりや、その後の日本風の文化の展開についても十分に理解できた児童は「よくできていた」と評価する。

<p>元との戦い、室町幕府について調べる</p> <p style="text-align: center;">4~5/9</p>	<p>元との戦いの様子や、鎌倉幕府が滅んだ後の室町幕府の政治について理解することができる。</p>	<p>①元との戦いは、どんな様子だったのか調べる。 ②足利氏が力をもった理由について考え、室町幕府の政治について調べる。</p>	<p>「元とは、どのようにして戦いましたか。」 「足利氏が開いた室町幕府は、どのような政治を行いましたか。」</p>
<p>くらしの変化と室町文化について調べる</p> <p style="text-align: center;">6~7/9</p>	<p>室町時代になってからのくらしの変化や、今に伝わる室町文化について理解することができる。</p>	<p>①農民などのくらしの様子が変わってきたことを調べる。 ②室町文化を調べ、どのような特色をもっているか話し合う。</p>	<p>「室町時代になると、くらしはどのように変わってきたのでしょうか。また、室町文化はどのような特色をもっているのでしょうか。」</p>
<p>学習のまとめ</p> <p style="text-align: center;">8~9/9</p>	<p>調べたことをもとに、武士の政治についてまとめのこぼれを考え、表現して、鎌倉・室町時代の様子について考えることができる。</p>		

④評価基準の参考例

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・資料活用	知識・理解
<p>B 武士による政治の始まりや室町文化のおこりなどに関心を持ち、年表その他の資料を活用して、意欲的に調べ、考えながら追究していた。</p>	<p>B 学習計画にそって調べを進め、鎌倉幕府と御恩・奉公で結ばれた武士社会への変化などについて、それに関わる人物の働きを考えていた。</p>	<p>B 遺跡や文化財、資料などを活用して、源平の戦いや鎌倉幕府と御家人との関係、室町文化の様子などを調べ、分かったことをノートに書きとめていた。</p>	<p>B 鎌倉幕府の将軍と御家人とは、御恩と奉公で結ばれ、武士の社会へと時代が変わっていたこと、また、元との戦いの様子を理解していた。</p>
<p>A B基準に加え、とくに、室町文化のおこりについていっそう関心を深め、現在の生活とのつながりを調べようとする態度が見られた。</p>	<p>A B基準に加え、武士による社会へと時代が変わったこと、また、室町文化が生まれたことから、我が国の歩みの特色をつかみ、適切な言葉で表現していた。</p>	<p>A B基準に加え、茶の湯や水墨画を体験して、そのやり方や、やってみての感想を分かりやすく表現していた。</p>	<p>A B基準に加え、室町時代に、今につながる文化がおこったことについても、十分理解していた。</p>

⑤「鎌倉幕府と御恩と奉公について調べる」における観察・資料活用の技能の評価例

この学習では、武士はどのようにして生まれ力をもってきたのか、源平の戦い、頼朝が開いた幕府のしくみや御恩と奉公について調べ、資料から読み取ることが大切である。したがって、資料の読み取りが不十分で、鎌倉幕府と御恩と奉公などについて、まったく調べる活動ができなかった児童は「努力を要する」、武士のおこり、源平の戦い、鎌倉幕府と御恩と奉公などについてよく調べることができた児童は「できていた」、さらに調べた過程や結果を、ノートに分かりやすく整理できた児童は「よくできていた」と評価する。

●小単元4	「戦国の世は、どう統一されたの」 (6年上教科書 p.60~71)
--------------	--

①小単元の目標

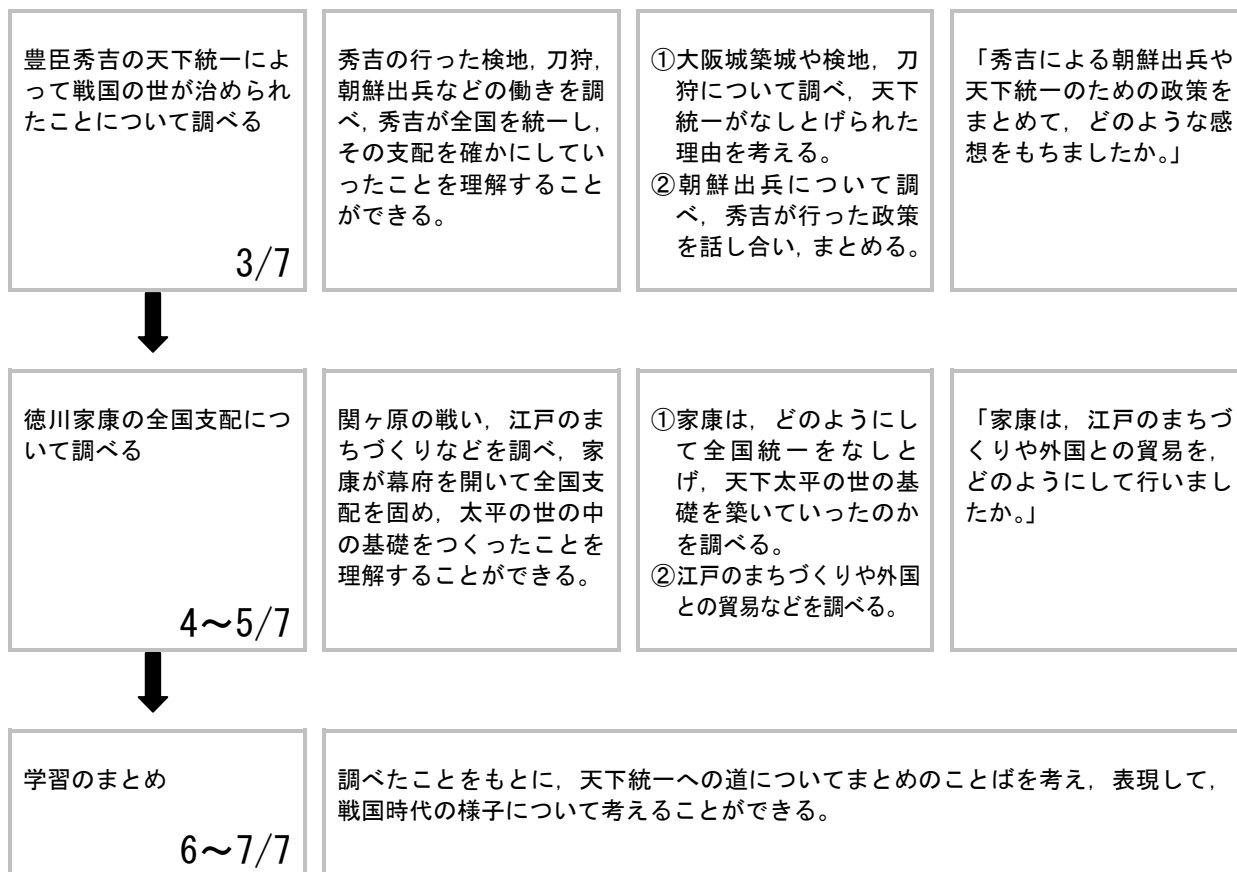
長篠の戦いや戦国の世の統一に関心を持ち、天下統一を進めた信長、天下統一をなしとげた秀吉、全国支配を固めた家康について、遺跡や文化財、年表その他の資料を活用して調べ、戦国の世が統一されたことが分かり、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。

②評価規準の設定例

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・ 判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象について の知識・理解
<p>信長・秀吉・家康の天下統一の過程に関心を持ち、意欲的に調べ、調べたことをもとに、群雄割拠の戦国の世を統一した三人の武将の働きにいつそう関心を深めている。</p>	<p>戦国の世は、どのようにして統一されていたのか、学習問題をつかみ、見通しをもって追究し、戦国の世を統一した信長、秀吉、家康の働きについて、適切な言葉で表現している。</p>	<p>次のことについて、遺跡や文化財、資料などを活用して調べている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・織田信長と安土城 ・豊臣秀吉と刀狩 ・徳川家康と関ヶ原の戦い、江戸のまち 	<p>戦国の世の統一は信長に始まり、秀吉が信長の意思を継いで基礎をつくり、家康が全国支配を固めたこと、また、鉄砲伝来後ほどなく、キリスト教が伝えられたことを理解している。</p>

③小単元の学習の流れ(7時間扱い)

学習事項	めあて	おもな学習活動	おもな発問例
<p>学習問題をつかむ</p> <p style="text-align: right; font-size: 1.2em;">1/7</p>	<p>「各地で力をたくわえていたおもな大名」の図を見て、「戦国の世はどのようにして統一されていたのか。」という学習問題をつかむことができる。</p>	<p>①「各地で力をたくわえていたおもな大名」の図から、群雄割拠の状況に気づかせ、誰がどのようにして天下統一を果たしたのかということを予想し、学習問題をつかむ。</p>	<p>「各地の大名の様子をみて、当時どのような時代であったと予想できますか。」</p> <p>「誰がどのようにして天下統一をしていったのでしょうか。」</p>
↓			
<p>鉄砲伝来や、キリスト教などの外国から伝わったもの、信長による天下統一の動きなどについて調べる</p> <p style="text-align: right; font-size: 1.2em;">2/7</p>	<p>鉄砲伝来による戦いの変化について調べ、戦国の世が統一される過程における信長の働きと、安土城築城や商工業の発展およびキリスト教の保護などを理解することができる。</p>	<p>①鉄砲伝来について調べ、鉄砲が戦いの変化をもたらした意味を考える。</p> <p>②信長の天下統一のための働きを、安土城築城や商工業の発展およびキリスト教の保護などと関連づけて調べる。</p>	<p>「鉄砲は、戦いの仕方になんか影響をおよぼしましたか。」</p> <p>「信長は、どのようにして天下統一へ進みましたか。」</p>
↓			



④評価基準の参考例

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・資料活用	知識・理解
B 信長・秀吉・家康の天下統一に関心をもち、年表その他の資料を活用して、意欲的に調べ、考えながら追究していた。	B 学習計画にそって調べを進め、戦国の世を統一した信長・秀吉・家康それぞれの働きを説明できていた。	B 遺跡や文化財、資料などを活用して信長・秀吉・家康について調べ、分かったことをノートに分かりやすく整理していた。	B 天下統一は、信長が始め、秀吉が実現し、家康が全国支配を固めて完成したことを理解していた。
A B基準に加え、上記三人について、外国とのつながりの観点からそれぞれの働きを調べていた。	A B基準に加え、上記三人の武将が我が国社会の発展に果たした役割を考え、適切な言葉で表現していた。	A B基準に加え、分かったことをもとに自分で考えたことをまとめ、わかりやすく発表していた。	A B基準に加え、鉄砲の伝来やキリスト教の広まりについても、十分理解していた。

⑤「豊臣秀吉の天下統一について調べる」における社会的な思考・判断・表現の評価例

この学習では、学習問題に沿って調べたことをもとに、天下統一をなしとげた豊臣秀吉が行った、検地や刀狩、朝鮮出兵などの政策について、その働きを適切に表現することが大切である。したがって、秀吉の政策と天下統一との関わりがとらえられなかった児童は「努力を要する」、秀吉の政策が、戦国の世を治め、天下統一にどのように結びついていったかを考え、その働きを説明できた児童は「できていた」、秀吉の政策と織田信長の政策とを比較するなどして、秀吉が果たした役割を適切な言葉で表現できた児童は「よくできていた」と評価する。

●小単元5	「徳川の世は、どんな世の中だったの」 (6年上教科書 p.76～91)
--------------	--

①小単元の目標

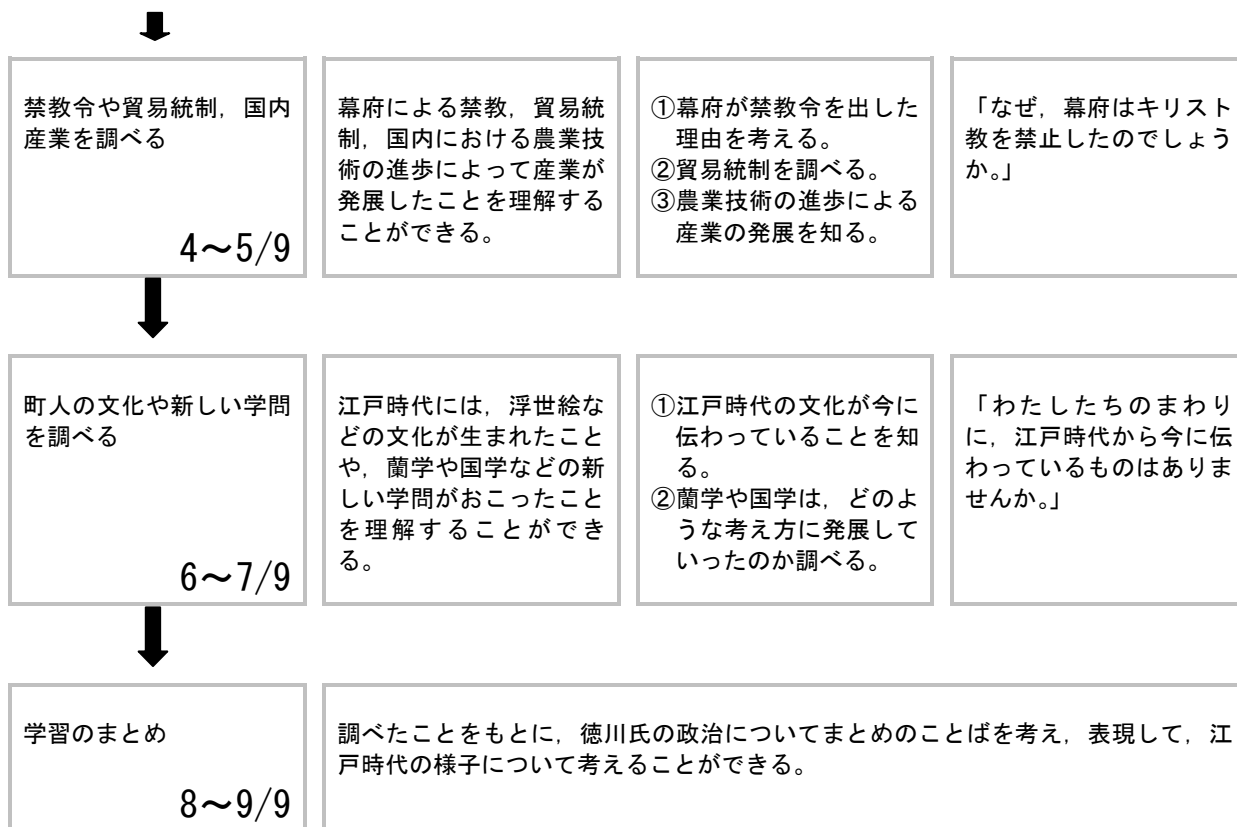
江戸時代の社会や文化に関心を持ち、身分制度の確立、貿易統制、町人の文化、新しい学問のおこりについて、遺跡や文化財、年表その他の資料を活用して調べ、身分制度が確立し武士による政治が安定したこと、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことが分かり、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。

②評価規準の設定例

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・ 判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象について の知識・理解
江戸時代の社会のしくみに関心を持ち、意欲的に調べ、身分制度の確立や武士による政治の安定、町人文化の繁栄などについて考えようとしている。	徳川氏によってどのような社会がつけられたのか、学習問題をつかみ、見通しをもって追究し、身分制度の確立や、武士による政治の安定、町人文化の繁栄について考え、適切な言葉で表現している。	次のことについて、遺跡や文化財、資料などを利用して調べている。 ・大名行列と大名統制 ・身分制度の確立 ・貿易の取り締まり ・農業や工業の発展 ・町人文化の広がり ・蘭学と国学	江戸幕府は、大名を統制するとともに、身分制度を確立し、貿易統制を行い、武士による政治が安定したこと、町人文化がさかんになり、蘭学や国学などの新しい学問もおこったことを理解している。

③小単元の学習の流れ(9時間扱い)

学習事項	めあて	おもな学習活動	おもな発問例
学習問題をつかむ 1/9	二つの絵を比べて話し合い、「江戸幕府の政治は、どのように移り変わっていったのでしょうか。」という学習問題をつかむことができる。	①江戸時代初期「将軍に挨拶する大名」の図と、中期以後の「歌舞伎を楽しむ庶民」の図から、江戸時代の大きな変化に気づかせ、学習問題をつかむ。	「二つの絵を比べて、武士が力をもった世の中が、どのように変化をしたのか考えましょう。」
江戸幕府のしくみや、身分制度について調べる 2～3/9	江戸幕府が大名を治めたしくみや、武士や農民などの様々な身分があったことを理解することができる。	①大名配置と領地の内訳の資料を見て話し合う。 ②江戸時代には、身分の違いがあったことを知る。 ③武士や農民、職人や商人の生活を調べる。	「大名の配置には、どんな特徴があるのでしょうか。」



④評価基準の参考例

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・資料活用	知識・理解
<p>B 江戸時代の社会のしくみや人々の生活に関心をもち，年表などの資料を活用して意欲的に調べながら追究していた。</p>	<p>B 身分制度の確立や町人文化の繁栄などについて，それに関わる人物の動きを説明できた。</p>	<p>B 遺跡や文化財，資料などを活用して，幕府の大名統制や身分による支配，キリスト教と貿易の取り締まり，町人文化の栄えなどを書きとめていた。</p>	<p>B 江戸幕府は，大名統制に力を注ぎ，身分制度を確立したこと，これにより武士による政治が安定したことを理解していた。</p>
<p>A B基準に加え，江戸時代の様子に関心を深め，我が国の歴史の特色を考えようとする態度が見られた。</p>	<p>A B基準に加え，町人文化や，新しい学問に関わった人物が社会の発展に果たした役割について，思考・判断したことを適切な言葉で表現していた。</p>	<p>A B基準に加え，調べた内容を，目的に応じた方法でノートなどに整理して，分かりやすくまとめた。</p>	<p>A B基準に加え，歌舞伎や人形芝居など町人文化がさかんになり，新しい学問がおこったことなどについても，十分理解していた。</p>

⑤「町人の文化や新しい学問を調べる」における社会的事象への関心・意欲・態度の評価例

この学習では，町人文化の繁栄を学ぶとともに，それらが現在まで受け継がれてきたことを理解し，それらを大切にすることを大切である。したがって，歌舞伎や人形芝居，浮世絵などの文化が受け継がれてきたことに十分気づいていなかった児童は「努力を要する」，受け継がれてきたことを理解し大切にしようとする態度をもった児童は「できていた」，自分たちがこれらを受け継ぐことについて自覚を見せた児童は「よくできていた」と評価する。

●小単元6	「新しい国づくりは、どう進められたの」 (6年上教科書 p.96~115)
--------------	--

①小単元の目標

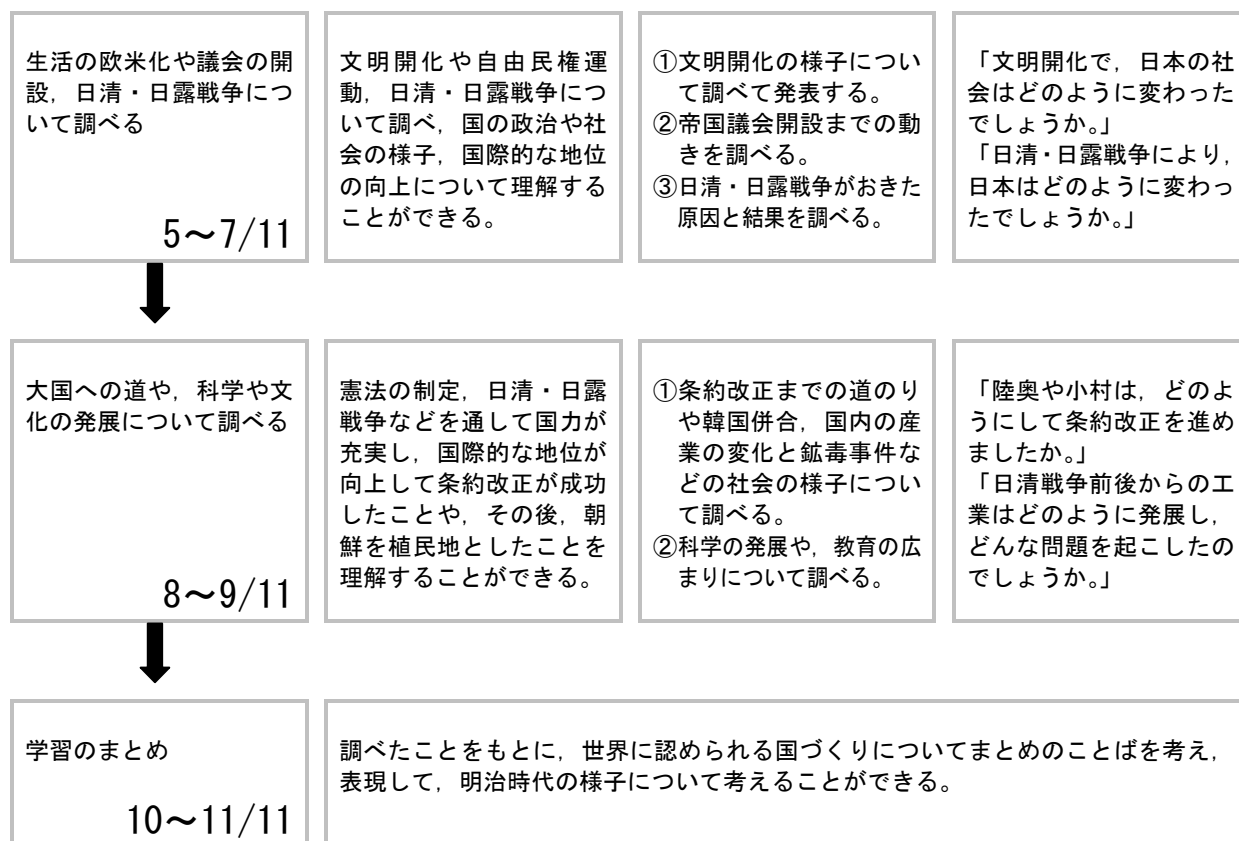
黒船の来航とその後の世の中の動きに関心を持ち、倒幕運動と明治維新、近代国家を目ざす諸改革、社会のしくみの変化、大国への歩み、科学の進歩などについて、遺跡や文化財、年表その他資料を活用して調べ、明治政府は廃藩置県や四民平等などの諸改革を行うとともに、欧米文化を取り入れて近代化を進めたことが分かり、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。

②評価規準の設定例

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・ 判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象について の知識・理解
<p>黒船の来航とその後の世の中の動きに関心を持ち、調べたことをもとに、明治維新における先人の働きについて、いっそう関心を深めている。</p>	<p>幕府を倒そうとした人たちが目ざした日本について学習問題をつかんで追究し、維新後の諸改革を行った先人の働きについて考え、適切な言葉で表現している。</p>	<p>次のことについて、遺跡や文化財、資料などを活用して調べている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒船の来航と倒幕、廃藩置県と遣欧使節、身分制度の廃止 ・日清・日露戦争、条約の改正 	<p>黒船の来航をきっかけに江戸幕府が倒れたこと、廃藩置県などの諸改革が行われ、さらに外国の進んだ文化を取り入れて近代化を進めたことなどを理解している。</p>

③小単元の学習の流れ(12時間扱い)

学習事項	めあて	おもな学習活動	おもな発問例
<p>学習問題をつかむ</p> <p style="font-size: 1.2em; margin-top: 10px;">1/11</p>	<p>「幕府を倒そうとした人々は、どんな日本を築こうとしたのか。」という学習問題をつかむことができる。</p>	<p>①各種資料をもとに、開国から新しい国づくりまでの過程を調べ、気づいたことや調べてみたいことを話し合う。</p>	<p>「二つの絵を比べて、幕府を倒した人々は、ペリ一来航からどんな新しい国づくりを目ざしたのでしょうか。」</p>
<p>↓</p>	<p>倒幕から新しい政府ができるまでの過程と、新しい国が目ざした目標、政府が行った政策について理解することができる。</p>	<p>①倒幕に至るまでの過程を、人物の働きを中心に発表する。 ②明治維新後の諸改革を調べ、どのような国づくりを目ざしたのか考える。</p>	<p>「この時代に活躍した人物について調べ、発表しましょう。」 「明治時代になり、社会のしくみはどのように変わりましたか。」</p>
<p>2~4/11</p> <p>↓</p>			

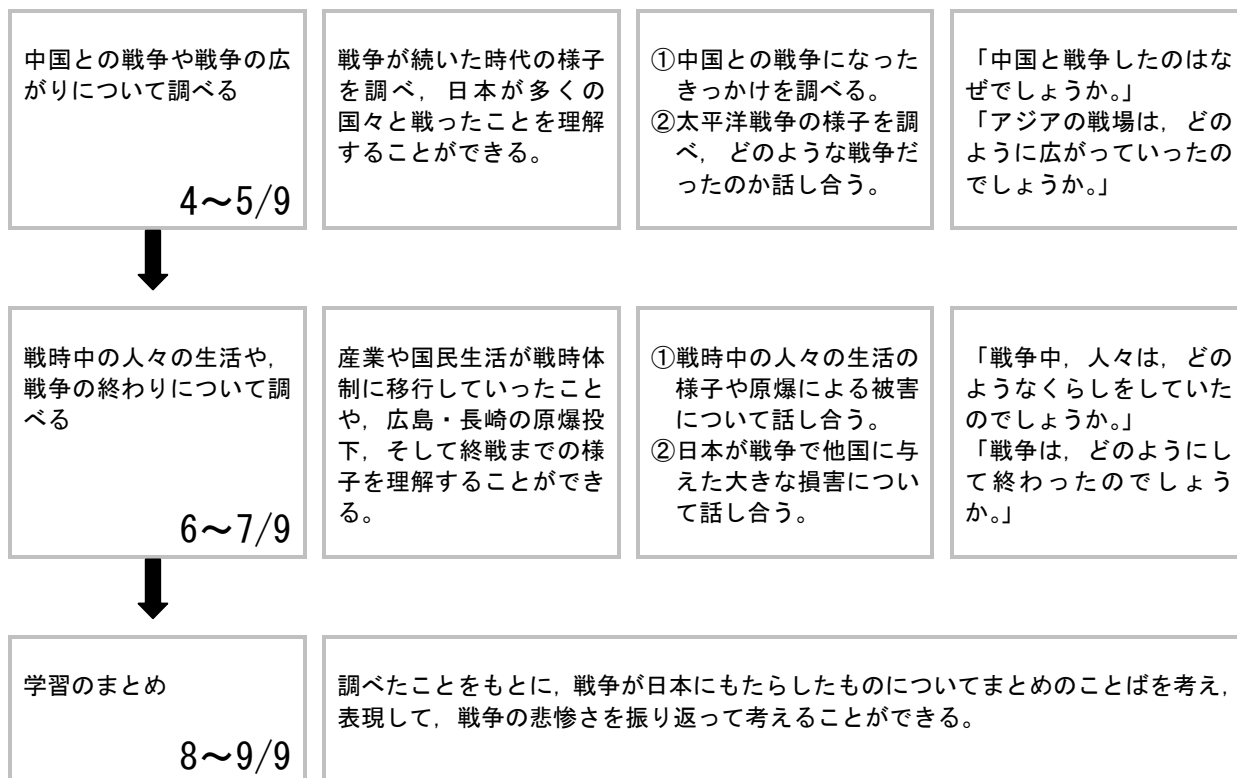


④評価基準の参考例

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・資料活用	知識・理解
<p>B 黒船の来航と倒幕運動、その後の国や社会の変化に関心をもち、年表その他の資料を活用して、意欲的に調べ、追究しようとしていた。</p>	<p>B 学習計画にそって調べを進め、黒船の来航、明治維新と近代国家を目ざした諸改革について、それらに関わる人物を中心に説明していた。</p>	<p>B 遺跡や文化財、資料などを活用して、黒船の来航と討幕運動、明治維新後の諸改革、文明開化、議会の開設、日清・日露戦争などを調べていた。</p>	<p>B 黒船の来航と討幕運動、明治維新、富国強兵政策、身分制度の廃止、文明開化、議会の開設、日清・日露戦争などについて理解していた。</p>
<p>A B基準に加え、とくに明治維新における先人の働きについていっそうの関心を深め、我が国の歴史を考えようとする態度が見られた。</p>	<p>A B基準に加え、明治政府は諸改革を行い、先人が我が国の歴史の発展に果たした役割について、思考・判断したことを適切な言葉で表現していた。</p>	<p>A B基準に加え、この時代に活躍した「人物カード」や近代化への変化をまとめた「紙芝居」などをつくり、分かりやすくまとめている。</p>	<p>A B基準に加え、世界に認められる国づくりの展開についてまとめ、「人物カード」や「紙芝居」に表すなど、十分理解していた。</p>

⑤「学習問題をつかむ」における社会的事象への関心・意欲・態度の評価例

この学習では、黒船の来航をきっかけにした倒幕運動とその後の国や社会の変化に関心をもち、年表その他の資料を活用して調べ、明治維新後の諸改革について理解しようとする意欲をもつことが大切である。したがって、この時代に活躍した人物の働きや諸改革、社会の変化などについてまったく関心をもてなかった児童は「努力を要する」、人物の働きや諸改革、社会の変化について、関心をもち、意欲的に調べようとしていた児童は「できていた」、人物の働きと諸改革との結びつき、人物の働きと社会の変化の結びつきに強い関心をもち、今後の学習活動に非常に意欲的な児童は「よくできていた」と評価する。



④評価基準の参考例

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・資料活用	知識・理解
B 中国との戦争や第二次世界大戦、戦争中の国民生活などに関心をもち、年表などの資料を活用して意欲的に調べながら追究していた。	B 学習計画にそって調べを進め、我が国は中国との戦争だけでなく、第二次世界大戦に加わり、敗れたことについて、説明することができた。	B 遺跡や文化財、資料などを活用して、中国との戦争や戦争中の暮らし、原爆による被害などについて調べ、分かったことをノートに書きとめていた。	B 我が国は、中国との戦争だけでなく、第二次世界大戦に加わって敗れたことを理解していた。
A B基準に加え、東京大空襲や沖縄戦、広島・長崎への原爆投下などにいっそうの関心を深め、平和を守ろうとする気持ちが見られた。	A B基準に加え、戦争が国民だけでなく、他国にも大きな損害を与えたことを通して、平和を守ることの大切さを考え、適切な言葉で表現していた。	A B基準に加え、ノートを整理して、「調べて考えたこと」をまとめ、「歴史新聞」などをつくって、分かりやすく発表していた。	A B基準に加え、戦争は国民に大きな被害を与えるとともに、中国をはじめとする諸国に対しても大きな損害を与えたことについても、十分理解していた。

⑤「学習のまとめ」における社会的な思考・判断・表現の評価例

この学習では、戦争による人々の暮らしの変化について学習問題をつかんで追究し、我が国が受けた被害や他国に与えた損害の大きさが分かり、平和を守ることの大切さを考え、自分の考えを適切に表現できることが大切である。したがって、戦争による人々の暮らしの変化や平和を守ることの大切さなどが十分にとらえられなかった児童は「努力を要する」、戦争が拡大していた経緯や国内外の様子が説明でき、平和を守ることの大切さを考えることができた児童は「できていた」、我が国が受けた被害や他国に与えた損害の大きさ、平和を守ることの大切さについて、適切な言葉で表現できた児童は「よくできていた」と評価する。

●小单元8	「平和な世界を目ざし、どう歩んでいるの」 (6年上教科書 p.132~145)
--------------	--

①小单元の目標

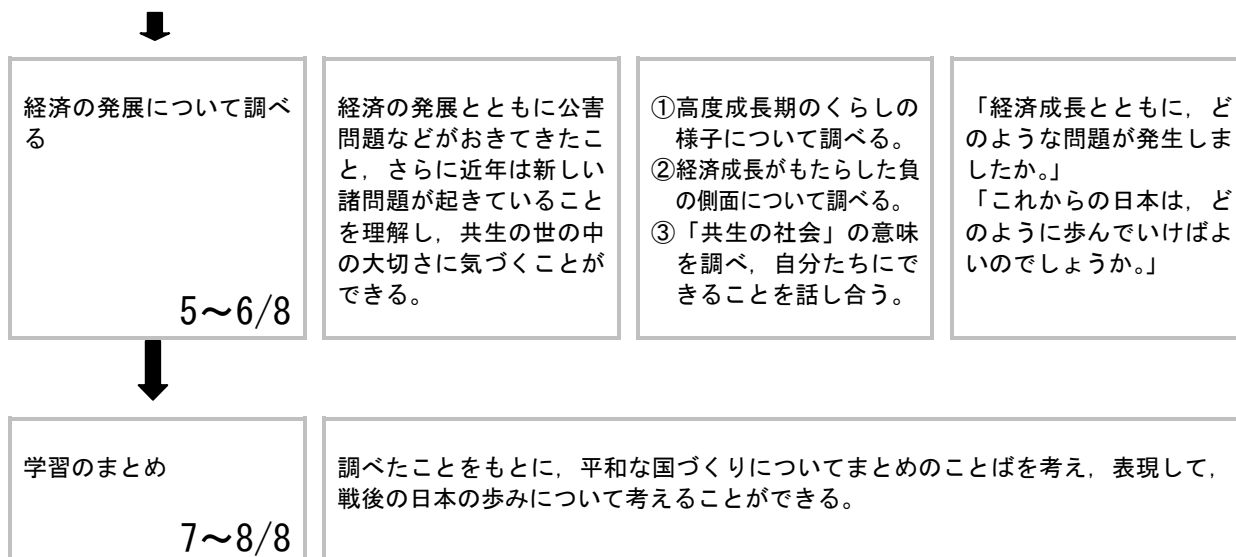
終戦直後の改革とその後の国づくりに関心を持ち、日本国憲法の制定、独立の回復、オリンピックのころの様子などについて、遺跡や文化財、年表や資料を活用して調べ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上したこと、さらに国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かり、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。

②評価規準の設定例

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・ 判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象について の知識・理解
戦争後の国の様子や改革、立ち直っていく日本の国づくりに関心を持ち、意欲的に調べ、考えようとしている。	戦後、我が国はどのように歩んでいったのか、学習の問題をつかみ、民主的な国家として再出発し、国際社会において重要な役割を果たしてきたことや、平和の大切さを、適切な言葉で表現している。	次のことについて、遺跡や文化財、資料などを利用して調べている。 ・日本国憲法の制定 ・独立の回復 ・オリンピックが開かれたころの様子 ・国際社会の一員としての歩み	戦後、我が国は民主的で平和主義的な憲法を制定したこと、その後、独立を回復し、東京オリンピックが開かれたころには、国民生活が向上したことを理解している。

③小单元の学習の流れ(8時間扱い)

学習事項	めあて	おもな学習活動	おもな発問例
学習問題をつかむ <div style="text-align: right; font-size: 1.2em;">1/8</div>	戦争直後と東京オリンピックの写真、祖父母の話から、戦後の日本の歩みについて学習問題をつかむことができる。	①終戦直後の写真と祖父の話から、当時のくらしの様子について話し合う。 ②東京オリンピック当時の写真と祖母の話で感じたことを話し合う。	「戦争が終わった直後、日本はどんな様子だったのでしょうか。」 「復興の様子は、どんなだったのでしょうか。」
<div style="text-align: center;">↓</div> 新しい国づくりのための改革と独立の回復を調べる <div style="text-align: right; font-size: 1.2em;">2~4/8</div>	戦後、わが国は様々な改革を行って民主主義の国づくりを目ざしたことを理解できるとともに、北方領土問題など未解決の諸問題が残されていることに気づくことができる。	①新しい国づくりに向けてどのような改革を行ったかを調べる。 ②独立回復の経過や、北方領土問題について調べる。 ③国際連合への加盟、核兵器反対運動など、世界平和を目ざす我が国の歩みについて話し合う。	「新しい平和な国を目ざして、どのような改革を行いましたか。」 「日本は、どのようにして独立を回復しましたか。」 「平和を守っていくためには、どのようなことが大切でしょうか。」
<div style="text-align: center;">↓</div>			

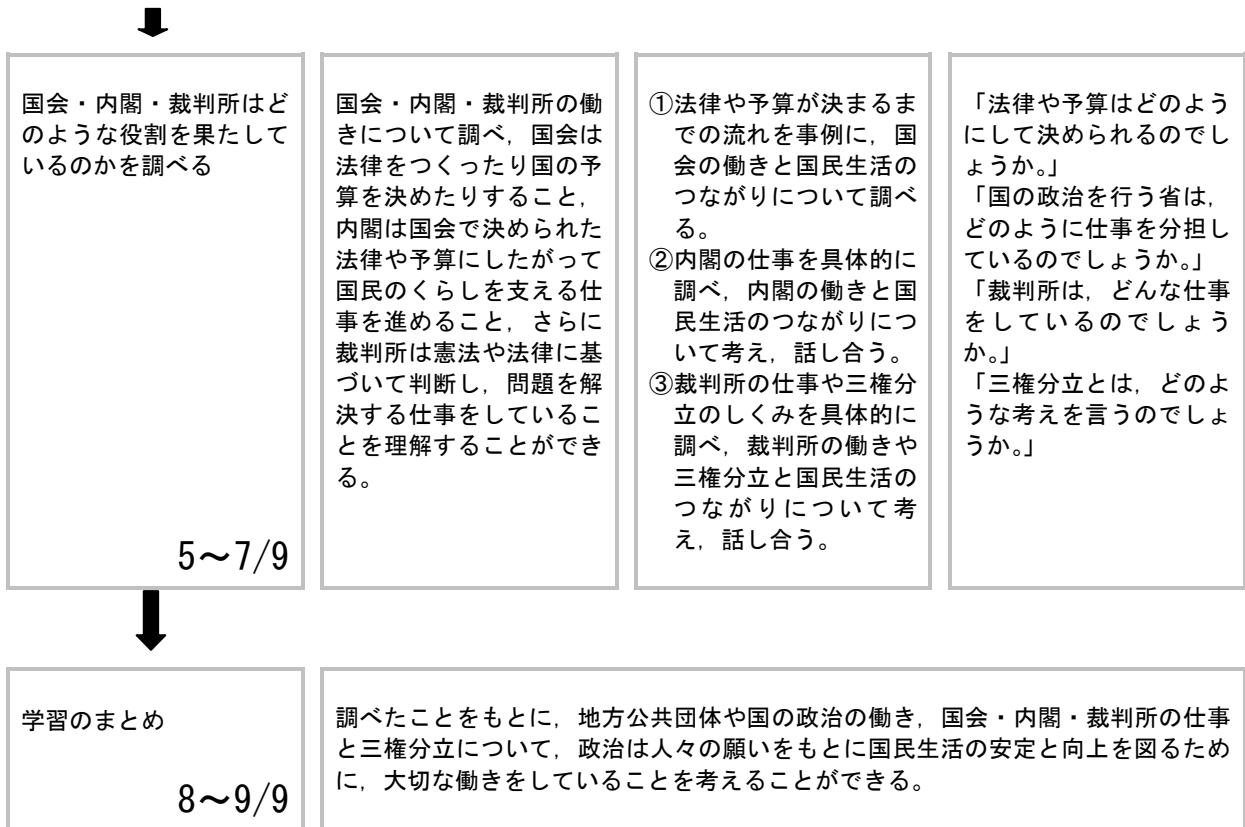


④評価基準の参考例

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・資料活用	知識・理解
B 戦後民主主義的な国家として出発した我が国の歩みに関心をもち、年表その他の資料を活用して意欲的に調べながら追究していた。	B 学習計画にそって調べを進め、我が国は民主的な国家として出発したこと、その後の国や社会の発展について説明できた。	B 遺跡や文化財、資料などを活用して、日本国憲法の制定、独立の回復、オリンピック開催などを調べ、分かったことをノートに書きとめていた。	B 戦後、我が国は民主的で平和主義な憲法を制定したこと、その後、独立を回復し、東京オリンピックが開かれたことなどを理解していた。
A B基準に加え、民主的な国家のあり方に関心を深め、平和を愛し国を愛そうとする気持ちが見られた。	A B基準に加え、戦後の我が国の歩みを通して、国際社会における我が国の役割を考え、判断したことを適切な言葉で表現していた。	A B基準に加え、ノートを整理して、「調べて考えたこと」をまとめ、取材した資料を整理して本をつくるなど、分かりやすくまとめていた。	A B基準に加え、戦後、国民生活が向上したことや国際社会において重要な役割を果たしていることについても、十分理解していた。

⑤「学習のまとめ」における社会的事象についての知識・理解の評価例

この学習では、戦後、民主主義的な国家として出発した我が国の歩みに関心をもち、年表その他の資料を活用して調べ、民主的で平和主義な憲法を制定したこと、その後、独立を回復し、東京オリンピックが開かれたこと、そのころの国民生活の向上について理解することが大切である。したがって、民主主義的な国家として出発した我が国の歩みについて理解していなかった児童は「努力を要する」、新しい国づくりのための諸改革や独立の回復、経済発展による人々のくらしや社会の変化などについて理解し、まとめたり表現したりすることのできた児童は「できていた」、さらに戦後も続く、戦争や核兵器に対し、平和を愛することの大切さを自覚し、差別のない共生の社会について目を向けることのできた児童は「よくできていた」と評価する。

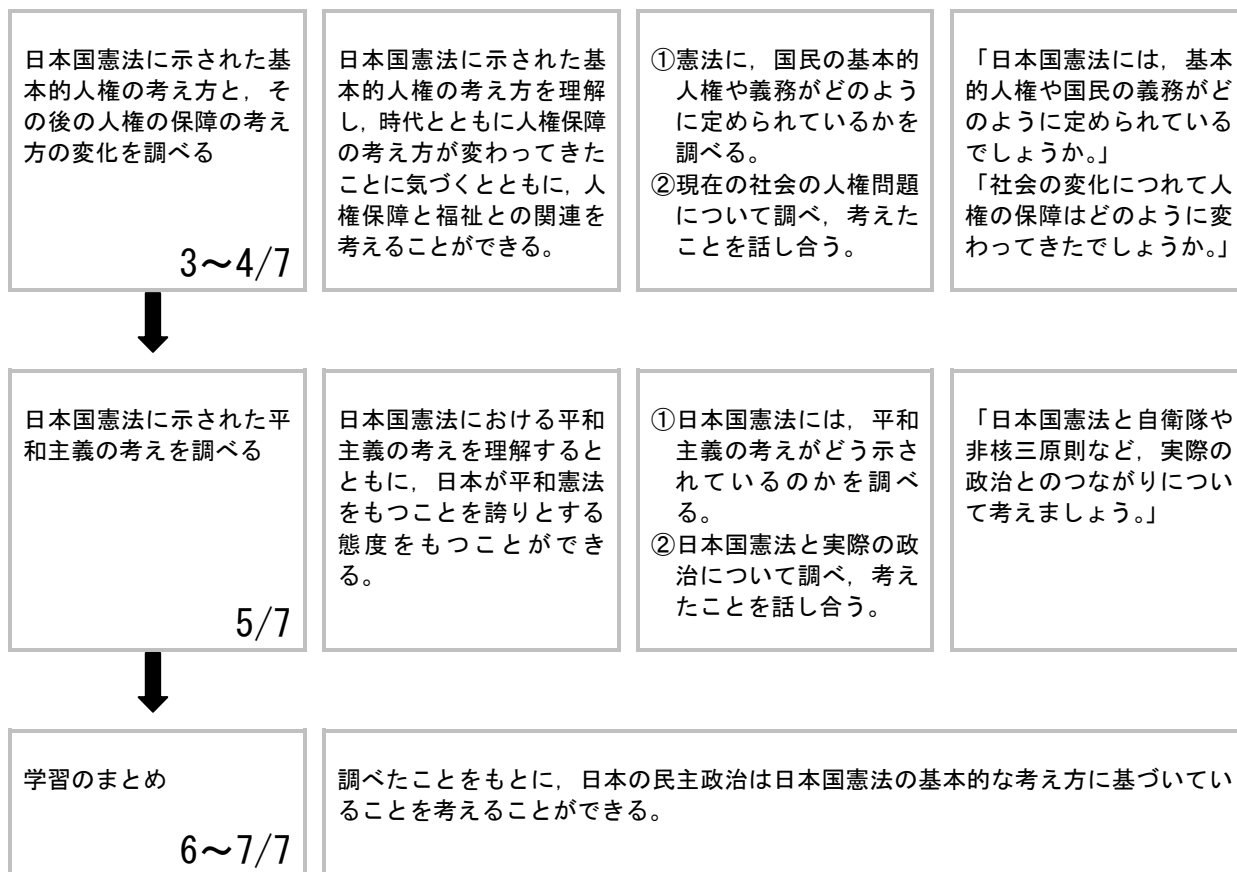


④評価基準の参考例

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・資料活用	知識・理解
B 政治の働きに関心をもち、地方や国の政治の働き、三権分立などについて、意欲的に追究していた。	B 政治はどんな働きをしているのか、学習問題をつかんで調べ、国民生活を高める政治が望まれていることを説明していた。	B 地方や国の政治の働き、国会・内閣・裁判所それぞれの役割について、様々な資料から調べていた。	B 地方や国の政治の働き、国会・内閣・裁判所それぞれの役割について、理解していた。
A B基準に加え、日常生活における政治の働きに関心が高く、新聞やテレビなどの報道から情報を得ようとする姿が見られた。	A B基準に加え、政治が国民の代表者によって進められていることの意味を、適切な言葉で表現していた。	A B基準に加え、政治が人々の願いをもとに進められていること、三権分立が民主政治の基本であることなどが、ノートに整理されていた。	A B基準に加え、政治が人々の願いをもとに進められていること、三権分立が民主政治の基本であることなどを、十分理解していた。

⑤「学習問題をつかむ」における社会的思考・判断・表現の評価例

この学習では、人々の暮らしを高めるために、政治はどんな働きをしているのか、学習問題をつかみ、見通しをもって追究できる素地が養われることが大切である。したがって、事例の足立区こども家庭支援センターやそれに類する身近な組織やしくみについて、具体的な疑問が出ず、学習問題をつかむことのできなかつた児童は「努力を要する」、「政治はどのようにして人びとの願いを実現させているのでしょうか」といった今後の学習を見通すことのできる学習問題をつかんだ児童は「できていた」、これまでの生活体験などから具体的で根拠のある予想をもち、その予想にしたがって学習問題を追究する計画が明らかな児童は「よくできていた」と評価する。

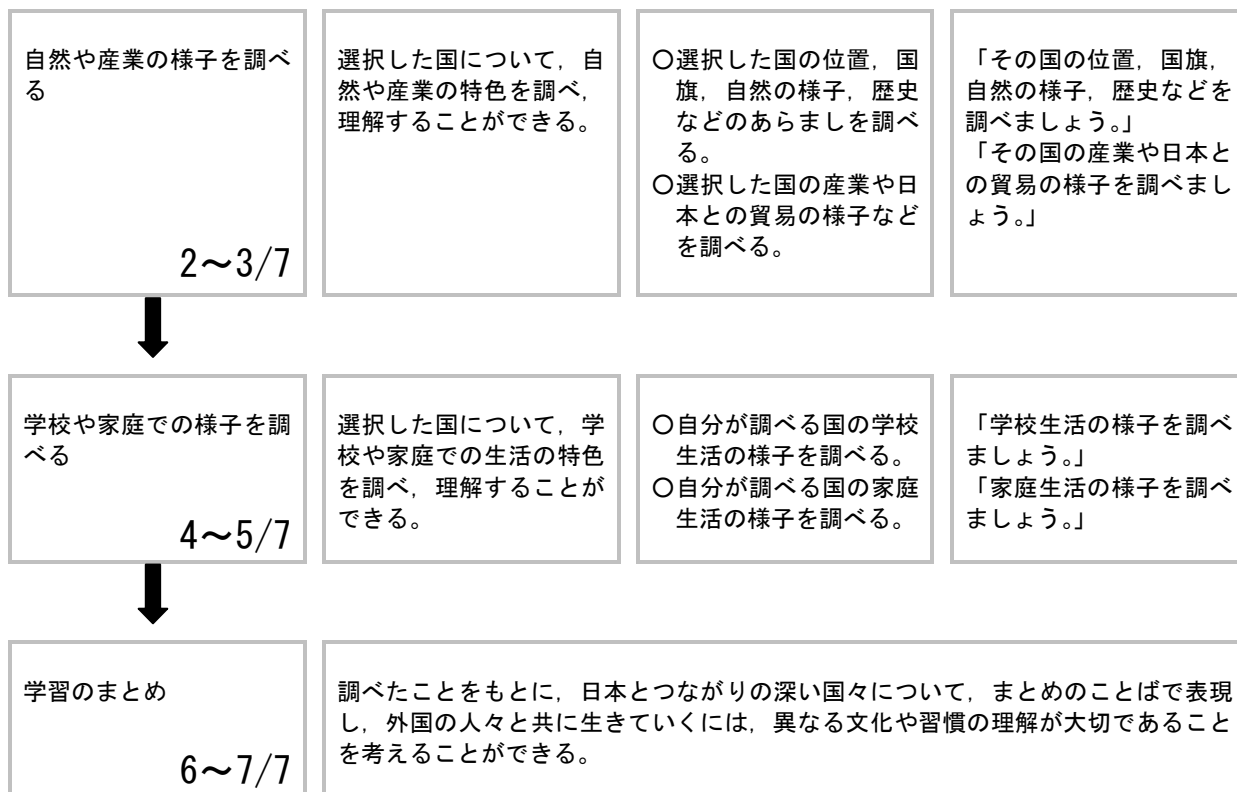


④評価基準の参考例

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・資料活用	知識・理解
<p>B 日本国憲法の特徴について関心を持ち、資料を活用して意欲的に調べ、考えながら追究していた。</p>	<p>B 学習計画にそって調べを進め、日本国憲法の三大原則と日常生活との関わりを考え、説明していた。</p>	<p>B 資料を活用して、日本国憲法の三大原則について調べ、分かったことをノートに書きとめていた。</p>	<p>B 日本国憲法は、政治の大原則やしぐみ、国民の権利・義務などを定めていることを理解していた。</p>
<p>A B基準に加え、国民としての権利および義務など国や国民生活の基本についてさらに深く調べようとする、意欲的な態度が見られた。</p>	<p>A B基準に加え、我が国の民主政治は、日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを考え、具体的に、適切な言葉で表現していた。</p>	<p>A B基準に加え、調べたことや考えたことを整理して、基本的人権に触れる行為についての意見を発表できるように、まとめていた。</p>	<p>A B基準に加え、女性差別や人種差別、また、選挙における棄権などは憲法の趣旨に添わない行為であることについても十分理解していた。</p>

⑤「日本国憲法に示された基本的人権の考え方を調べる」における社会的事象についての知識・理解の評価例

この学習では、どんな権利が保障されているのかとともに、国民の義務についても理解することが大切である。したがって、法の下で平等に扱われる権利や国の政治や地方の政治に参加する権利などの基本的な権利が理解できていなかった児童は「努力を要する」、基本的な人権の内容を理解するとともに、国民の義務についても理解できていた児童は「できていた」、さらに、人権をめぐる様々な問題が現在の社会に存在することをよく理解していた児童は「よくできていた」と評価する。

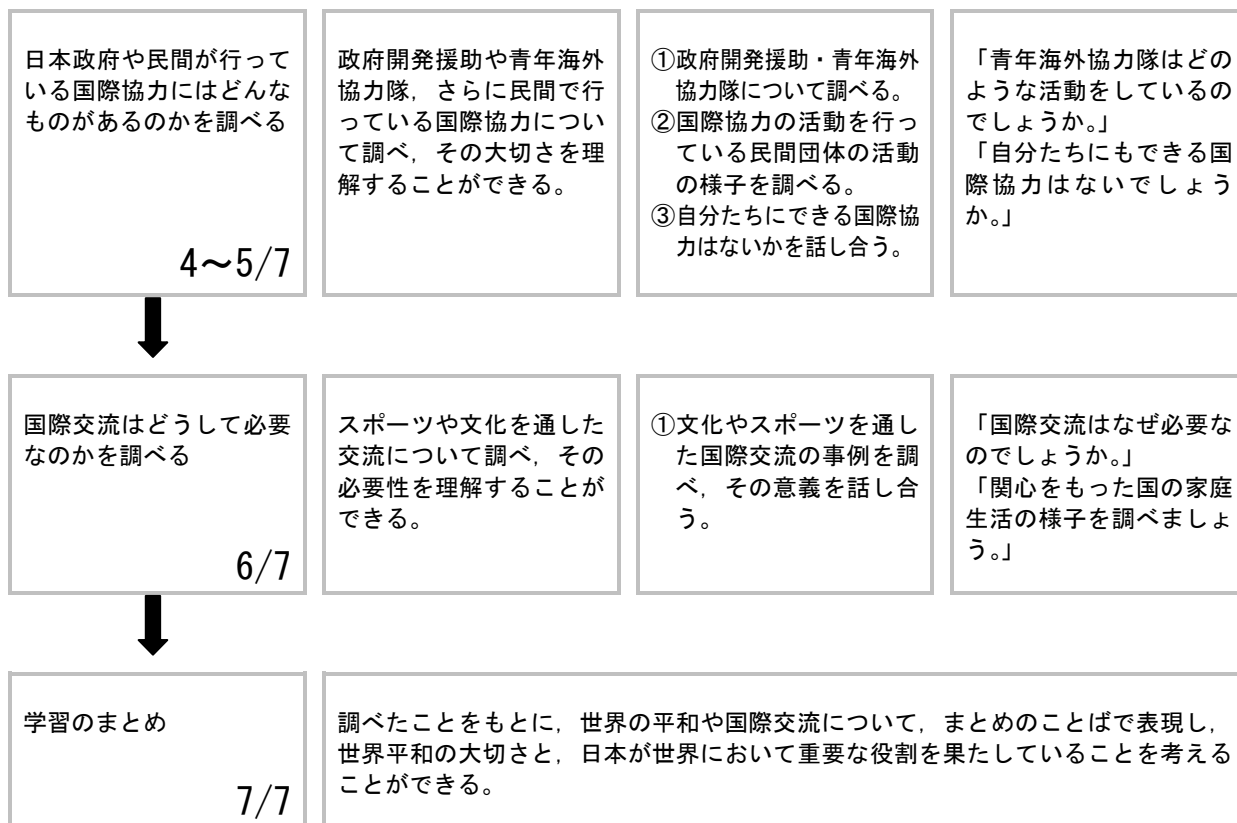


④評価基準の参考例

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・資料活用	知識・理解
B 我が国と経済や文化などの面でのつながりが深い国の人々の生活に関心をもち、地図その他の資料を活用して、意欲的に調べ、考えながら追究していた。	B 学習計画にそって調べを進め、外国の人々の生活や文化に関心を深め、異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることの意味を考え、説明していた。	B 調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして、アメリカや中国・ブラジル、エジプトの人々の生活の様子を調べ、分かったことをノートに書きとめていた。	B 我が国とつながりの深いアメリカ、中国、ブラジル、エジプトの人々の生活を調べ、日本とは違った文化や習慣が見られることを理解していた。
A B基準に加え、外国の生活や文化にいつそうの関心を深め、我が国や諸外国の文化や伝統を尊重しようとする態度が見られた。	A B基準に加え、外国の人々と共に生きていくには、異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることを考え、適切な言葉で表現していた。	A B基準に加え、調べたことや考えたことをノートに整理し、ポスターセッションで活用できるように、分かりやすくまとめていた。	A B基準に加え、外国の人々と共に生きていくには、異なる文化や習慣を認め合うことが大切であることをについても、十分理解していた。

⑤「自然や産業を調べる」における観察・資料活用の技能の評価例

この学習では、アメリカ、中国、ブラジル、エジプトの4か国から児童が選択したいずれかの国の位置、国旗、自然の様子、歴史などのあらましについて、調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして、分かったことをノートに書きとめることができることが大切である。したがって、調べたり地図や資料などを活用できず、その国のあらましがとらえられなかった児童は「努力を要する」、あらましをノートに書くことができていた児童は「できていた」、学習問題に基づいて調べたことをノートに書き、この後のポスターセッションの役立つような整理ができていた児童は「よくできていた」と評価する。



④評価基準の参考例

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・資料活用	知識・理解
<p>B 我が国が平和な国際社会の実現のために果たしている役割に関心を持ち、意欲的に調べ、考えながら追究していた。</p>	<p>B 学習計画にそって調べを進め、国際連合の働きやユニセフの活動、わが国の国際交流の役割などを考えていた。</p>	<p>B 各種資料を活用して、国際連合やユニセフの活動、我が国の国際協力や国際交流などについて調べ、分かったことをノートに書きとめていた。</p>	<p>B 我が国の国際交流やユニセフの活動、国際連合の働き、民間の国際協力活動などの様子が理解していた。</p>
<p>A B基準に加え、平和を願う日本人として、自分にもできることを考えようとする態度が見られた。</p>	<p>A B基準に加え、世界平和のために我が国が世界において果たしている役割を、適切な言葉で表現していた。</p>	<p>A B基準に加え、分かったことをもとに、作文などに分かりやすく表現していた。</p>	<p>A B基準に加え、これらの活動や働きの意義を十分理解していた。</p>

⑤「学習のまとめ」における社会的な思考・判断・表現の評価例

この学習では、調べたことをもとに、世界平和の大切さと、我が国が世界において重要な役割を果たしていることを考え、意見文として論述できていることが大切である。したがって、学習した内容の記述のみで自分の考えが論述できていなかった児童は「努力を要する」、世界平和を守るために様々な活動が行われている事実のみでなく、世界平和の大切さと、我が国が世界において重要な役割を果たしていることにも言及していた児童は「できていた」、さらに世界平和や国際交流に対する解決策や、自分や友人・家族などの関わりが具体的に論述できた児童は「よくできていた」と評価する。